

「こいつぁ～春から歌舞伎研修！」第二弾
～歌舞伎座で来日観光客向け説明をマスター～
2018年2月9日（金）実施 JGA 第一支部実施研修報告

2月9日（金）松竹株式会社様のご協力のもと、中央区築地4丁目の東劇ビル内の大会議室、また歌舞伎座において、「歌舞伎研修」が開催されました。参加人数は56名（JGA会員48名、非会員6名、運営委員2名）で、広島県、京都府、愛知県からも遥々ご参加頂きました。

当研修は、松竹株式会社 演劇開発企画部 演劇ライツ室の温井秀哉様の推進のもと企画が進められ、当日は二部構成で実施されました。第一部は講義で、演劇ライツ室長の窪寺祐司様が、①歌舞伎の襲名、②当日夜の部の演目の紹介（背景と成立）、③歌舞伎の女方、④歌舞伎の新しい試み について解説くださいました。実際に女方として中村歌司を名乗っていらっしゃる藤田伊昭氏が登場され、インタビューに応じてくださるというサプライズもございました。次に、演劇本部開発企画部営業室マネージャーの田野暦子様から、英語でのチケット購入の仕方、一幕見席の利用方法、歌舞伎座タワーの見所、また、「大向こう」などよく聞かれる質問、等について説明いただきました。



第二部は観劇で、今回の演目は1月に続き二代目松本白鸚、十代目松本幸四郎、八代目市川染五郎と37年振りの高麗屋三代同時襲名披露、さらに歌舞伎座百三十年記念ということで、歌舞伎界の歴史に残る内容でした。祝幕は草間彌生のデザインです。まず第一幕は「熊谷陣屋」、第二幕は今回の舞台のためだけに作られた「壽三代歌舞伎賑」、第三幕は「仮名手本忠臣蔵 七段目」という、歌舞伎ファンには嬉しい演目です。出演も、中村吉右衛門、片岡仁左衛門、坂東玉三郎、尾上菊五郎、坂田藤十郎、中村芝翫ほか、豪華俳優陣がずらりと勢揃い、何とも贅沢な、滅多に見ることの出来ない舞台で、三代同時襲名披露ならではの迫力ある内容でした。

